

# 令和7年度 基本施策評価シート

基本施策	D4	環境意識・行動の定着を図ります		
2025年度に めざす姿	対 象		意 図	
	だれもが		環境に対する当事者意識を持ち、環境行動を実践している。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			114ページ	
基本施策主管課名	環境政策課	関係課名	土木総務課、資源循環課、ゼロカーボンシティ推進室、学校教育課	

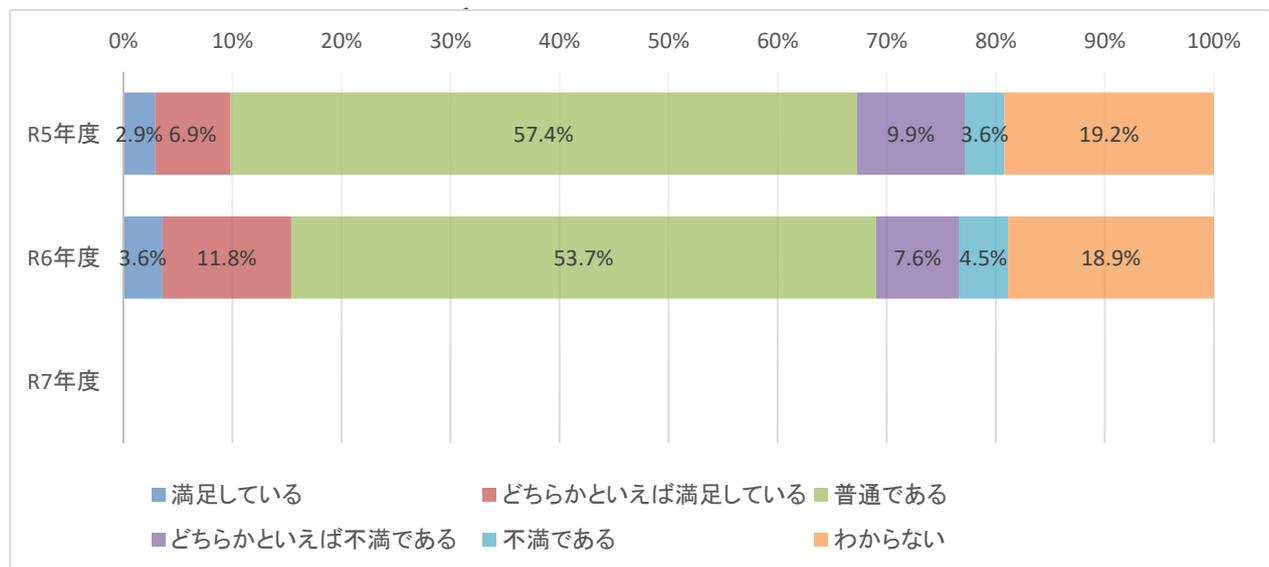
## 基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本施策の成果指標である「環境活動に参加した市民の割合」は38.5%(令和6年度実績)で、基準値である37.8%(令和2年度)からは上昇しているものの、2025年度(令和7年度)に目指す姿である48.0%を下回っている。</li> <li>●環境行動を促すための情報提供が行き届いていないため、環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしが十分でない。</li> </ul> <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
D4-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中学校においてはESD講座の取組みにより環境学習を深化させるとともに、全世代において「サステナプラザながさき」を中心として、環境講座や教室等を実施することで多様な世代が学べる場を拡大していく。</li> </ul>
D4-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゼロカーボンポータルサイトを活用し、補助金など市民にとって有益な情報を掲載しつつ啓発を図るとともに、環境ポイントを付与するアプリを活用しキャンペーンなどのインセンティブを実施することにより、新たに環境行動に取り組む方の掘り起こしを図る。</li> </ul>

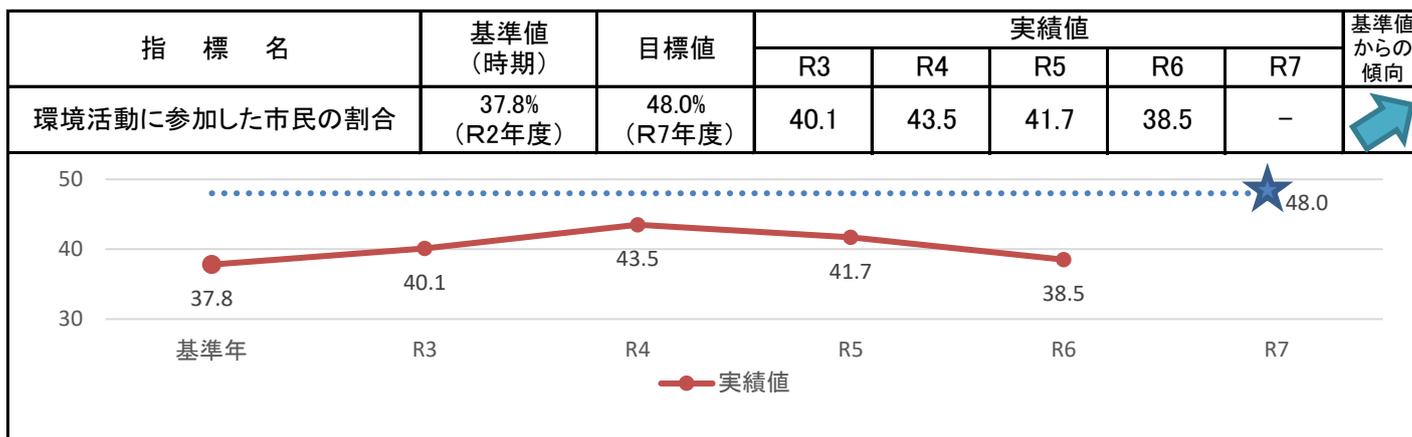
## 二次評価(施策評価会議による評価)

●	エコライフフェスタは、多くの来場があっているため、イベント内容を適宜見直すことで、市民の自発的な環境行動につながるよう工夫すること。また、若者の参加が少ないという現状があることから、今後は若者が参加したくなるような内容も検討すること。
●	緑化推進事業について、取組み及び周知方法が恒常化していることを問題点とあげているが、改善型評価の趣旨を踏まえ、新たな取組みを検討すること。

## 基本施策に対する市民満足度調査結果



## 成果指標



## 年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>親子環境教室の開催 3回開催、201人参加</li> <li>親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、41人参加</li> <li>環境副読本の制作・配布(データにより提供)</li> <li>ながさきエコライフ・フェスタ 6,900人</li> <li>ながさきエコライフ・ウィーク 39,200人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子環境教室の開催 3回開催、178人参加</li> <li>親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、32人参加</li> <li>長崎市内小学校の児童用端末に環境副読本(データ)掲載</li> <li>ながさきエコライフ・フェスタ(実り・めぐみの感謝祭等と合同開催) 20,700人</li> <li>ながさきエコライフ・チャレンジ月間 200人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子環境教室の開催 3回開催、176人参加</li> <li>親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、64人参加</li> <li>長崎市内小学校の児童用端末に環境副読本(データ)掲載</li> <li>ながさきエコライフ・フェスタ 参加者数約20,800人</li> <li>ながさきエコライフ・チャレンジ月間 173人</li> </ul>	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	D4-1	環境に対する当事者意識の醸成を図ります
2025年度に めざす姿	対象	意 図
	だれもが	あらゆる世代で環境を学び、当事者としての環境意識を持っている。
個別施策主管課名	環境政策課	

成果

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

●「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を開催したことで、親子での自然環境、省エネ等の体験を通して、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけにつながった。  
「親子環境教室」3回 176人  
「親子で省エネ実験・施設見学会」1回 64人 ※九州電力株式会社長崎営業所との共催

●様々な団体に対し実施する地球温暖化防止活動推進員による環境出前講座にて、省エネの啓発や牛乳パックを用いたエコ工作、防災エコクッキング等を実施することにより、幅広い世代において自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。  
「環境出前講座」28回 893人

●学校生活において、節電・節水、緑のカーテン、落ち葉や給食残滓を利用した堆肥づくりなどの環境行動の取組みを通して、環境意識の醸成が図られた。特に、小中学校57校においては、総合的な学習の時間等における環境学習を実施した。  
また、21校において給食用牛乳パックの回収を行い、67校において家庭から排出されるペットボトル等のふたやプルタブの回収を行ったことから、児童・生徒及び保護者のごみ分別・リサイクル意識の醸成が図られた。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

●環境団体との連携により小中学校の総合的な学習時間を利用して実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座を8校で実施したことにより、子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。

●本市の自然環境や地球温暖化対策を紹介する環境副読本のデータに、脱炭素先行地域及び高島サンゴのページを追加し、市内小学校の各児童の端末に掲載したことで、環境問題を身近な問題として感じてもらうための環境学習のサポートにつながった。

●サステナプラザながさきにおいて、地球温暖化防止活動推進員のスキルアップ研修を実施し、環境教育の次世代を担うリーダーの育成を図った。  
「スキルアップ研修」3回 31人

問題点とその要因

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

●サステナプラザを中心に様々な講座を実施し、無関心層が興味を持つような内容についても検討しているが、なかなか参加実績につながらない。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

●小中学校においては、ESD講座などの新たな取組みを実施する際には教育課程の中で調整する必要があることから、学校側が実施しやすいような講座内容や周知時期を工夫をしているものの、その効果が一部にとどまっている。

今後の取組方針

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

継続 ●「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を継続し、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけづくりに努める。

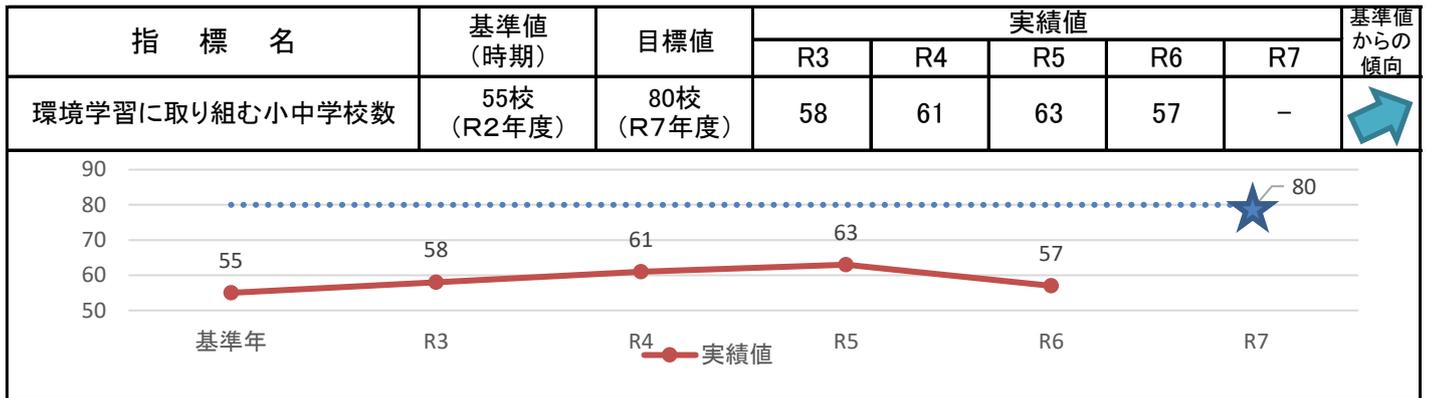
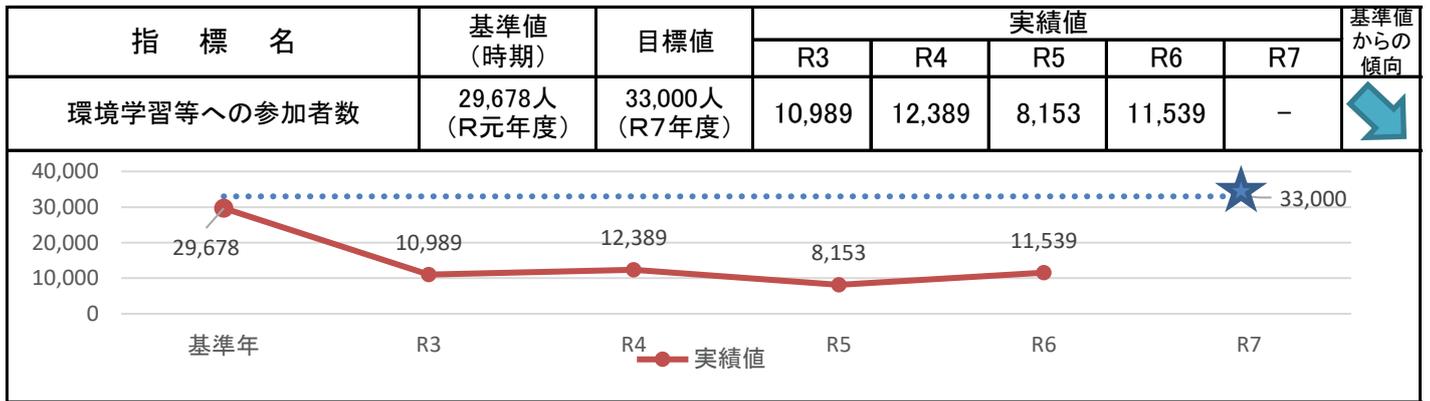
継続 ●エコ工作の講座では、異なる層をターゲットにした講座とするような内容の検討や、参加者には環境ポイントを付与するなどの工夫により、新たに環境行動に取り組む方の掘り起こしを図る。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

継続 ●環境団体だけでなく民間企業とも連携し、小中学校の総合的な学習時間を利用して実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座の取組みを広げるとともに、環境副読本、環境行動11か条周知動画や路面電車アドストラップ広告の他にも手法を検討しながら、「ゼロカーボンシティ長崎」の推進と子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力の育成を図る。

継続 ●環境活動の様子をSNSなどで紹介するなど、若年層をターゲットとした啓発を行い、意識醸成を図る。

## 成果指標



## 施策を推進する主な事業

事業名 担当課	環境啓発推進費		環境政策課
成果指標	環境教室の参加人数(人)		 <p>【親子環境教室】</p>
目標値	200人		
実績値	240人		
達成率	120.0%		
成果指標・ 目標値の説明	環境学習への取組みの拡大を図るため、親子環境教室及び親子で省エネ実験・施設見学会の参加人数を成果指標とした。 後期基本計画策定時、目標値を見直し、各環境教室の定員数(50人)に開催数を乗じた値を各年度の目標値とした。		
事業目的	環境意識の高い市民を増やすことで自発的に環境行動を実践する市民を増やし、持続可能な社会の構築を目指す。		
事業概要	親子環境教室、親子で省エネ実験・施設見学会等、次世代を担う人材の育成のための環境教育を行うとともに、環境副読本の作成などを行う。		
取組実績	・親子環境教室の開催 3回開催、176人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、64人参加 ・環境副読本の制作・配布(データにより提供)		
	決算(見込)額	1,534,178 円	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	D4-2	環境行動を促し、生活様式として定着させます
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	だれもが	自発的な環境行動を実践している。
個別施策主管課名	環境政策課	

成果

① 自発的な環境行動の推進

●長崎水辺の森公園にて開催した「ながさきエコライフ・フェスタ」では、約20,800人が来場した(令和5年度:約20,700人→令和6年度:約20,800人)。また、市民が環境団体等の活動に参加する「ながさきエコライフチャレンジ月間」を実施し、延173人が参加した。市民や事業者がイベントや活動に参加することで、自らできる環境行動の促進につながった。

●市民大清掃やアダプトプログラムなどにおける清掃活動参加者や、ながさきエコライフ・フェスタ来場者に対し、ごみ拾いSNS「ピリカ」を活用して市内におけるごみ拾い活動見える化の取組みに関する周知活動を行ったことにより、令和6年度のピリカを通じてのごみ拾い活動参加者は前年度から引き続き3,000人前後で推移したものの、拾われたごみは前年度の倍の約24万個となるなど、市民等の環境意識の醸成や、自発的な環境行動への取組みの推進が図られた。

●市民大清掃等のイベントや、ボランティア清掃団体に対してごみ袋の支給を行っており、令和6年度は約500団体、延約8万2千人がボランティア清掃に参加し、地域や職域、学校など様々な単位・団体による自発的な活動が継続的に実施されており、環境行動に対する意識の醸成が図られた。

また、ごみ出しマナーについて、新大学生へ向け、啓発促進のためのブースを学内に設置し、ごみの減量と分別の徹底を呼びかけることで、ごみ出しのマナーやごみの減量、分別に対する意識の向上につながった。

② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

●サステナプラザながさきにおいて、市民の身近な環境行動を推進するため、環境講座(サステナひろば(36回))や海洋プラスチックごみ削減を目的とした山・まち・川・海での清掃活動(2回)等の市民向けイベントを実施したことにより、市民の環境行動の促進につながった。

●市内の若者で構成される環境団体が、ながさきエコライフ・フェスタにおいて、ブースを出展しPRを行うことで、特に若い世代に向けた環境行動の周知・啓発につながった。

また、サステナプラザながさきにおいて、インターン生を2人受け入れ、環境分野の就業体験へつながったことや、長崎大学のゼミ生にゼロカーボンポータルサイトの記事作成の取材を実施してもらうなど、若い世代への環境意識の向上につながった。

③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

●ゼロカーボンポータルサイトにおいて、1日のエコ日常や環境行動を実践する市民・事業者の取材記事の掲載、環境ポイントを付与するアプリを活用したお得なキャンペーンを行うことで、環境に興味のない方の掘り起こしを図った。また、当該アプリの登録を省エネルギー家電製品等購入補助の要件とすることで、ポータルサイトの周知や市民の環境行動の推進を図った。

●広報ながさき8月号において、家庭エアコンのお得な設定方法と使用方法を掲載し、家庭部門における省エネ及びCO2削減の推進を図った。

●エコライフフェスタや居留地まつりにおいて、サステナプラザながさきが省エネルギー家電製品等購入補助や各種補助金等の周知を行うことで、「ゼロカーボンシティ長崎」の実現に向けた機運醸成を図った。

●環境のために一人ひとりができることをまとめた「環境行動11か条」を路面電車等へ掲示した。さらに、動画を街頭ビジョン等で周知することにより、環境行動の実践につながるきっかけづくりにつながった。

●本市と市内の各種団体で構成する長崎市「街を美しくする運動」推進協議会において、市内の小学校に対して、製作する長崎ごみぶくろ(小型のボランティア清掃用ごみ袋)のデザインや「まちを美しくする標語」の公募を行った結果、長崎ごみぶくろデザインについては45校226人、標語については60校604人から応募があり、優秀作品を地域環境美化に関する周知啓発に活用することで、子どもたちをはじめとした市民等の環境への意識やボランティア意識の醸成につなげることができた。

●子どもたちに花や緑に興味関心を抱いてもらうため、公共花壇デザインコンクールを開催したところ、小学生(3~6年生)から749作品のデザインの応募があり、そのうち4作品を松山町にある市営陸上競技場の花壇に植栽した。多くの子どもたちに花や緑について考える機会を提供でき、より深く花や緑に興味関心を抱いてもらうことにつながった。

●より多くの人に花や緑に触れ、その理解と知識を深めてもらうため、造園関係団体等と連携して実施する「ながさきグリーンキャンペーン」において、会場イベントを市役所庁舎前広場で開催し、約800人が来場した。多くの人に花や緑に触れる機会を提供することで、その理解や知識をより深めるきっかけづくりにつなげることができた。

## 問題点とその要因

### ① 自発的な環境行動の推進

●2回目となるながさきエコライフチャレンジ月間は、周知方法が確立できていないことなどから、参加者数が伸びなかった。

### ② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

●若年層をターゲットとした周知・広報が不足しているため、若年層の各種イベント等への参加が少ない。

### ③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

●「サステナプラザながさき」事務所については、より目立つ桜町へ移転し、認知度についても年々上昇している(平成29年度 4.7%⇒令和5年度 45.9%)ものの、未だ低い状況にある。

●ゼロカーボンポータルサイトの情報を充実させ、お得なキャンペーンを行うなどにより、環境に興味のない方の掘り起こしを図っているものの、環境行動やイベントの参加など、十分な成果に結びついていない。

●緑化推進事業の取組み及び周知方法が恒常化しており、新たな市民の参加につながっていない。

## 今後の取組方針

### ① 自発的な環境行動の推進

継続 ●ゼロカーボンポータルサイトを活用し、補助金など市民にとって有益な情報を掲載しつつ環境意識への啓発を図るとともに、環境ポイントを付与するアプリを活用し、参加者にキャンペーンなどのインセンティブを実施することにより、新たに環境行動に取り組む方の掘り起こしを図る。

### ② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

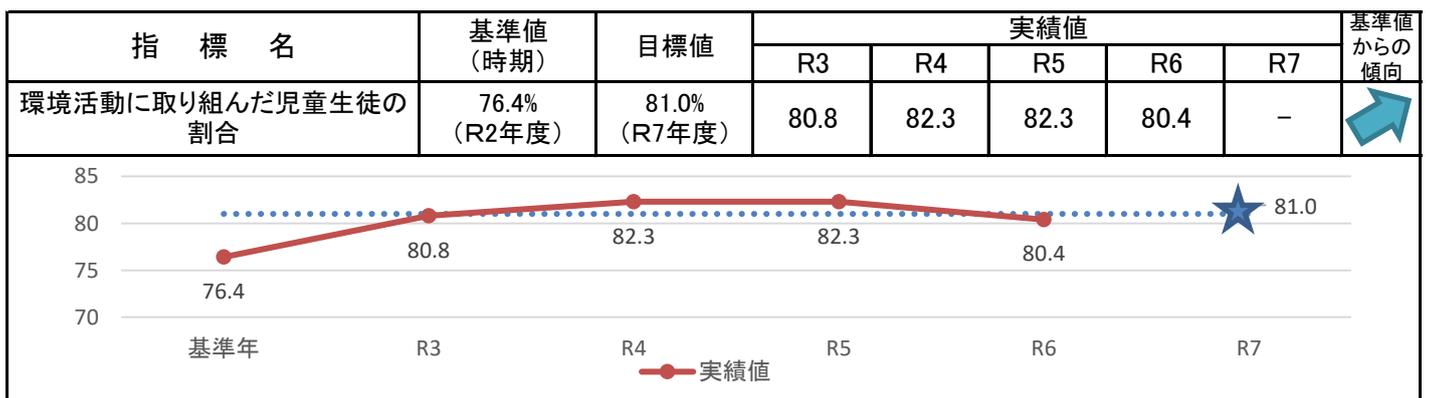
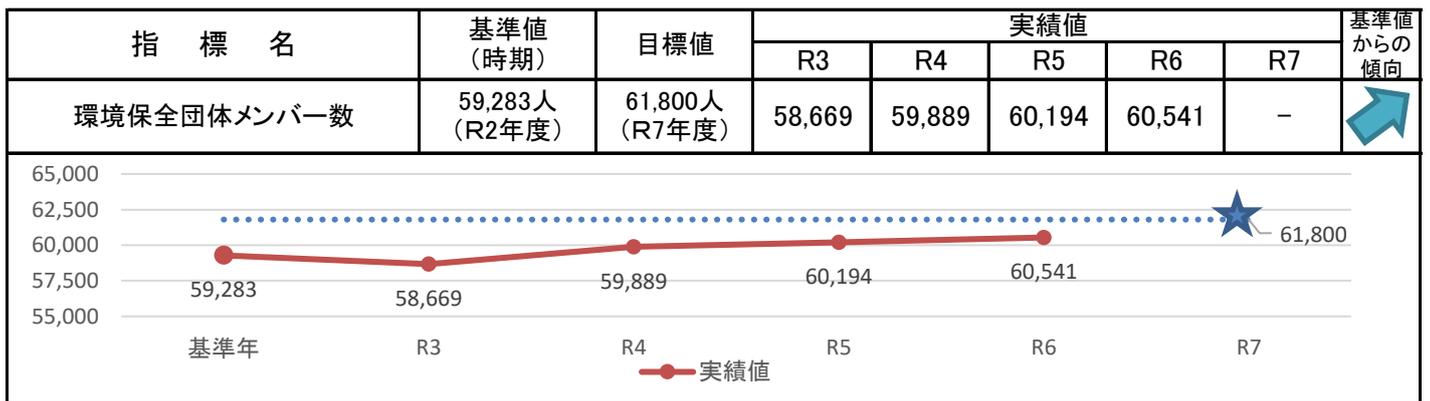
継続 ●環境活動の様子をSNSなどで紹介する等、若年層をターゲットとした啓発を行い、意識醸成を図る。

### ③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

継続 ●ゼロカーボンポータルサイトを活用し、補助金等市民にとって有益な情報を掲載しつつ啓発を図るとともに、環境ポイントを付与するアプリを活用しキャンペーン等のインセンティブを実施することにより、新たに環境行動に取り組む方の掘り起こしを図る。

継続 ●幅広い世代へ緑化の推進を図るため、市の様々な広報手段と連携し、時期を捉えて緑化活動を紹介する等緑化の魅力を発信するとともに、イベント等を開催することで、花や緑への興味関心を促す等、緑化の啓発に取り組む。

## 成果指標



施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	地球温暖化対策市民運動推進費	ゼロカーボンシティ推進室
	成果指標	環境イベントへの来場者数(人)	 <p>【ながさきエコライフ・フェスタ】</p>
	目標値	20,900人	
	実績値	20,973人	
	達成率	100.4%	
1	成果指標・ 目標値の説明	<p>市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、より多くの市民が環境行動を実践するためのきっかけづくりとして、環境イベントを開催することとしている。市民が取り組むことのできる運動を展開し、CO2の排出量削減等に向けた市民運動の創出を図るため、成果指標とした。また、前年度は十分な来場者数となったため、前年度の来場者数を目標値としている。</p>	
	事業目的	<p>市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、「だれでも」「いつでも」「簡単に」取り組むことができる運動を展開し、CO2の排出量削減に向けた市民運動の創出を図る。</p>	
	事業概要	<p>「ながさきエコライフ」の取組みの更なる浸透と拡大を図るため、ながさきエコライフ基金等を活用し、広く市民が参画する活動や、未来を担うこどもたちの活動へ還元することで、市民の自発的かつ継続的な環境行動を促進する。</p>	
	取組実績	ながさきエコライフ・フェスタ 20,800人 ながさきエコライフ・チャレンジ月間 173人	
		決算(見込)額	28,505,660 円